

町の文化財あれこれ 其の七十六

このはなさくやひめのみこと

木花開耶姫尊の碑

鴨沢自治会館の入り口の右側に富士講の一種で小松石（真鶴石とも根府川石ともいう）の碑があります。富士山の姿を象徴するような形で富士山の祭神とされる木花開耶姫尊の神名が刻まれています。富士山登拝の記念碑です。碑高は150cmほどあり裏面には「万延元年（西暦1860年）」の年号があります。周囲には「堅牢地神」の卵型自然石や「道路改修工事記念碑」「自治会館落成記念之碑」などが並んでおり、自治会館の奥には立派な日光社が祭られています。鴨沢地区の方の話では、旧自治会館（1931年10月に中井村青年団鴨澤支部会場として建てられた）とのことです。

これらの碑、日光社はもともと県道77号（平塚松田線）の鴨沢隧道（1985年3月完成）の手前南下橋から見て、隧道に入らず右側に曲がる旧道手前の松田方面道路上にあったそうです。道路拡張工事のため立ち退くことになり、1981年3月15日に取り壊され現在の自治会館の場所に日光社とともに移設されました。鴨沢自治会館内には安田清氏の描いた水彩画額が掛けられており旧自治会館や木花開耶姫尊の富士講碑などが確認できます。

富士講は富士山を信仰する講社で18世紀ごろには禁制が出される



鴨沢自治会館の富士講碑



安田清氏の水彩画

ほど組織化され、一説には江戸八百八町に八百八講ありと言われるほど盛んになったといわれています。刻まれている木花開耶姫尊は浅間大神ともいわれ富士山の祭神です。

富士山の祭神とされたのは、神話の時代天孫である、天津彦彦火瓊瓊杵尊（以下瓊瓊杵尊）が天降り地上に降りました。ある日、美しい木花開耶姫尊に一目ぼれして、父である大山津見神に結婚の許しを乞いました。大山津見神はたいそう喜び、たくさんの結納の品を持たせ、木花開耶姫尊ばかりでなく姉の岩長姫尊も添えて娘たちを差し向けました。ところが瓊瓊杵尊は、醜い岩長姫尊だけ大山津見神のもとに送り返してしまいます。怒った大山津見神は「岩のような永遠の寿命になるよう岩長姫尊を差し上げたのに、返したことであなたの子孫は限られたものになるでしょう」と告げました。そんな訳で人の寿命は限られたものになったそうです。

さて、木花開耶姫尊は一夜で妊娠したことを瓊瓊杵尊に告げますと「本当に自分の子か？」と疑いました。そこで木花開耶姫尊は、産屋の出入り口全て塗り固め「私が潔白であれば無事出産できるでしょう」と火を付け、猛火の中で3人の御子を無事出産しました。このことから木花開耶姫尊は「火難除けの神」として崇敬されることになったそうです。記紀伝承では第7代孝靈天皇の時代、富士山が噴火し国内が荒廃したため第11代垂仁天皇は富士山の鳴動を鎮めるため富士の裾野に浅間大神を祭り、富士講が盛んになって江戸期に木花開耶姫尊が御神体となりました。それ故、富士講碑に木花開耶姫尊名が刻まれています。

参考資料 中井町誌、古事記、日本書紀

「神社と神様」がよくわかる本（島崎晋著）

（文化財保護委員 小野）